

弘成館規則

弘成館見り自序

弘成

弘成館規則自序

予カ弘成館タルヤ當今宇内ノ形勢ヲ考視
スルニ文明ノ教化日ニ行レ月ニ進ム各自主自由
ヲ得テ千高萬工其分ヲ盡シ以テ開化進歩
ノ補翼ニ備フ嗚呼宜ナラスヤ予モ幸ニ開明
ノ治ニ浴シ自主自由ノ權ヲ得ル空ク光日ヲ送
ルハ造化ノ意中ニ悖ルト云ツヘシ依之今茲ニ弘
成館ヲ真立シ以テ永世普久ノ鴻益ヲ起スヘキ
為ニ土質ノ講學ヲ實地ニ関キ山園土中ノ礦

物ヲ發掘シ國家ノ公益ヲ顯ント欲ス謹テ神
明ニ誓フ友厚恃リ貪利スルニ非ス鴻業即チ
弘成スルヤ其得益ハ館中ノ規則ヲ以テ各其
分ヲ惠割シ終身治養ノ目的ヲ興ヘ或ハ友
子ノ志ヲ助クヘシ有益者注目ニ餘アラハ尚人
莫ノ必要ヲ補助セント欲ス須ク宇宙造化ノ
理善ヲ成ス者ハ善以テ門戸ニ競フ不善ヲ成
ス者ハ其災責瞬間ニ報フ理會セヨ館中ノ
子人ノ世ニ處スル仮令善ヲ思フトモ怠慢遊
惰ナルニ造化僥倖ヲ與フルニ非ス人莫ヲ尽サシテ
以テ志ヲ得サシム依之人生四肢百骸ヲ具シ智
神經ヲ備フ然ハ則チ人事ヲ尽シテ成ラサル
コトナシ故ニ鴻業ノ成切ハ教和シテ講學勉
勵スルニアリ

明治六年癸酉第一月

五代友厚

弘成館財本規則

第一則

一 鑛山ヲ開拓スル財本ハ毎年六月十二月兩度ニ
時價至當ノ利息ヲ拂フヘシ

第二則

一 鑛山ヲ開キ萬一損害ヲ請タルトキハ館主從前
松友社中ノ規則ヲ以テ是ヲ補フヘシ

第三則

一 鑛山ヲ開拓シ一鑛山ノ全益ヲ定ムルニ財本ニ

時價ノ利息ヲ算シ月俸ヲ拂ヒ雜費ヲ減シ
以テ是ヲ全益トス

第四則

一各所鑛山ノ全益ヲ算算シテ内部ノ雜費ヲ
減シ館中鑛山開拓ノ全益トス

第五則

一莫三四則ヲ以テ館中鑛山開拓ノ全益ヲ定メ
是ヲ十分シテ以テ益分ヲ公割スル尤ノ如シ

十分ノ二割

右八年々歳々是ヲ積蓄スヘシ普ク鑛山弘成スルニ
至テハ損害ヲ請ル莫ナカラサルヘカラス故ニ損害償
補ノ方法設ケサルヲ得ス或ハ國家ノ公益ヲ計ル
館中獨リ貪利スヘカラス女子ノ志ヲ助ケサルヲ
得ス或ハ人事ノ必要ヲ補^助セサルヲ得ス趣意自
序ノ如シ

十分ノ一割

右ハ館中普ク月俸ノ多寡ニ應シ比例式ヲ以テ
公平ニ是ヲ惠割ス然レトモ館中^主環ニ其者ニ與ヘ

ス如何トナレハ財理ノ活用最モ容易ナラフス館中
ノ子儀ニ大金ヲ有スルトキハ誤テ再ヒ散スルノ
患アリ故ニ館中ノ証書ヲ以テ是ヲ預リ時機
至當ノ利息ヲ六ヶ月毎ニ拂ヒ興フヘシ亦其者
入用アルトキハ詳ニ是ヲ終事ニ述拙策ヲ不招
必要ノ事件ナレハ則其金高ヲ拂ヒ興フヘシ
抑館中ニ仕ルモノハミナ館主ノ赤子タリ故ニ
終身治養ノ道ナカラサルヘカラス勿論此金蓄
積スルニ隨ヒ再ヒ萬古不易ノ良法ニ用ユヘキ
財本トナシ終身子孫安佚ノ礎基ヲ窮メ興フ
ヘシ

十分ノ一割

右ハ館中功アルハ勿論誠心勉勵スル者ハ
別段ノ賞ヲ興フ或ハ館中臨時ノ費用ニ
備ユル者ナリ

但賞典ノ金ハ前條ノ規則ニ依テ是ヲ預置ヘシ
十分ノ一割

右ハ鴻業弘成スルニ從ヒ保護ノ費用ニ備フ

以上五割ノ全益ハ館中ニ仕ル者終身治養ノ
目的ヲ興ヘ或ハ有志ノ志ヲ助ケ人ト共ニ利シ
人ト共ニ真起スルノ赤心ヲ表スル所ナリ

十分ノ五割

右弘成館主及従前松友社中是ヲ配分ス則

損害ニ関スル財主タリ

第六則

館員ノ月俸等級ヲ定ル左ノ如シ

一等俸 月俸 貳百五拾圓

全 準 全 貳百貳拾五圓

二等俸 全 貳百圓

全 準 全 百七拾五圓

三等俸 全 百五拾圓

全 準 全 百貳拾五圓

四等俸 全 百圓

全 準 全 九拾圓

五等俸 全 八拾圓

全 準 全 七拾圓

以上直撰俸卜唱

六等俸

月俸六拾圓

全 準

全 五拾五圓

七等俸

全 五拾圓

全 準

全 四拾五圓

八等俸

全 四拾圓

全 準

全 三拾五圓

九等俸

全 三拾圓

全 準

全 貳拾五圓

以上撰問俸卜唱

十等俸

月俸貳拾圓

全 準

全 拾八圓

十一等俸

全 拾六圓

全 準

全 拾四圓

十二等俸

全 拾貳圓

全 準

全 拾圓

十三等俸

全 九圓

全 準

全 八圓

十四等俸

月俸

七圓五拾錢

全 準

全

七圓

十五等俸

全

六圓五拾錢

全 準

全

六圓

十六等俸

全

五圓五拾錢

全 準

全

五圓

十七等俸

全

四圓五拾錢

全 準

全

四圓

十八等俸

全

三圓五拾錢

全 準

全

三圓

十九等俸

全

貳圓五拾錢

全 準

全

貳圓

二十等俸

全

壹圓五拾錢

全 準

全

壹圓

以上專撰俸卜唱

第七則

一第 六則 於ル月俸ノ等級ヲ定ムルニ直撰ナルハ
館主自命ス撰問ナルハ各所鑛長是ヲ撰擧シテ

可否ヲ館主ニ問フ專撰ナルハ各所鑛長進退黜陟スルノ權ヲ有ス故ニ某鑛山ニ於テ某人ヲ進退セハ直ニ月日俸級ヲ館中ニ報告スヘシ

但撰問俸ハ不得止ノ外館主專斷ヲナサス

鑛長ニ議シテ以テ是ヲ行フ

第八則

一館中確定シタル月俸ハ職唱ニ對セサル者ニシテ全別種ナリ故ニ職唱同級ノ大課長ト雖モ其月俸各異ナリ繁閑ノ課年月ノ長短ニ依テ多

少アリ又精惜ヲ以テ進退セサルヲ得ス館中上下ノ席順ハ職唱ノ等級順次ヲ以テ是ヲ定ム併カラ仮令ハ三等ノ鑛長三名アリ其席ヲ定ムルニ至テハ月俸ノ等級ニ依テ上下ヲ分ツ又其俸級全等ナルハ年月ノ久ヲ以テ上席トスヘシ餘ハ是ニ準フ

第九則

一館中全益ノ一割ヲ惠割スルニハ職唱ノ高卑ヲ論ヒス月俸ノ多寡ニ奇リテ比例式ヲ設ケ公平ニ是ヲ割ル又俸級ノ進退ニ依テ月俸

増減スルモノハ一月ヨリ六月迄則テ六ヶ月間各
入手シタル月俸ノ金高ヲ筆算シテ比例式ヲ
設クヘシ

第十則

一館中遊金アル氏ハ嚴重ノ引當ヲ以テ貸出ス
ヘシ引當ナキニ於テハ仮令館主ノ命ト雖モ総
事考事正檢是ヲ拒止スルノ權ヲ有ス
但友子ノ志ヲ助ケ人事ノ必要ヲ補助
スルノ類ハ此例ニ非ス

弘成館総事規則

第一條

一総事ハ則館中ノ總括ナリ故ニ弘成館中ノ主
業ハ勿論從前松友号ヲ以テ行營セシ臨時必勝ノ
公益ヲ計ルノ類諸事関涉セサルナシ依之館中
内外ノ諸務一往総事ニ示談顧問シテ後館主ニ
決テ乞フヘシ規則ニ於ル常例ノ事務ハ総事
專斷スルノ權ヲ與フ

第二條

一 館中財本ノ基根ハ総事自ラ是ヲ取扱フヘシ出
収課入用ノ分ハ時々是ヲ推算シテ宛行フヘキ
モノナリ

第三條

一 内部專撰級ノ進退黜陟ノ權總事ノ專断タル
ヘシ撰問級ノ如キハ公議スルノ餘權ヲ與フ

第四條

一 考査ノ職唱掌ニ於テ公議スルノ件々ハ勿論臨時ノ
重更件ハ則議事ヲ設ケ公議シテ以テ是ヲ館主ニ
告ケ決テ之ヲ行ヘシ

第五條

一 内外総括直撰以上ノ進退黜陟及館中賞罰ノ
典友子憂國ノ志ヲ助ケ國家ノ必要ヲ補助シ或ハ保
護ノ費用ヲ散スルノ五ヶ條ハ全ク館主ノ專断
タルヘシト雖モ館主私貪ノ所置アル時ハ考査ト共
議シ是ヲ拒止スルノ權ヲ與フ

但賞典ノ財友子憂國ノ志ヲ助ルノ財國家ノ
必要ヲ補助スルノ財及館中保護ノ費用

ハ賦本規則全益配割ノ條目ニ則ルモノナリ

第六條

一内外事務定用ノ買物ハ總吏專斷スルノ權ヲ與フ
故ニ書掌ヲシテ是ヲ日記ニ詳記シ館主及考吏ノ
備考ニ備フヘシ

但各所鑛山定用物品訛文ノ諸品或ハ館中
定用ノ器品類

第七條

一釜銀銅錫鉛其他ノ賣物ハ考事規則第七條ニ
基キ取扱ヲ成シ賣鬻スルノ駈引自ラ任シテ是ヲ司
ルヘシ而テ賣價決スルニ至テ館主ノ決ヲ乞フヘシ

第八條

一各所鑛山ヨリ日々表スル所ノ日表ハ考吏正檢ト共ニ
嚴重ノ檢査ヲ成シ過失ナキ時ハ取扱ノ者檢査濟ノ
小印ヲ居ヘ是ヲ館主ニ出スヘシ而テ後月表ニ掲
載スヘシ

第九條

一内外各課ノ規則ニ於テ總吏關涉スルノ件々ヲ

所置スルハ勿論過償金ノ方法ヲ布ク總吏任シテ
是ヲ司ルヘシ

第十條

一金銀幣財ノ出収ハ勿論金銀銅錫鉛及物品ヲ
出収スル時ハ檢正課ノ檢査ヲ以テ其物品ヲ正點ニ
過不足アル時ハ依テ起ルノ源根ヲ糾問シ故ナク不
足ニ及フモノハ償ノ方法ヲ以テ私慾奸計ニ依テ不
足スルモノハ誓言第十條ノ規則ヲ以テ嚴重是
ヲ所置スヘシ

第十一條

一總事ノ職掌内外百事總括スルノミナラス利害ヲ定
メ得失ヲ知リ事務ニ臨ミ時機ニ乘シ其機會ヲ失
セサルヲ要スル重任ニシテ最モ容易ナラサル職掌
心ヲ用サルヲ得ス勉勵セサルヲ得ス

弘成館考事規則

考事職掌現其事務ヲ関涉スルニ非ス全議
負タリ故ニ議ヲ設ル條目左ノ如ク

第一條

一財本ヲ定メ或ハ財本増減スヘキ事

第二條

一鑛山ヲ買取り開拓ヲ始ムルノ事

第三條

一鑛山ノ開鎖或ハ賣鬻スヘキ事

第 四 條

一 館中新法ヲ設ル方法ノ事

第 五 條

一 館中方法ヲ變革スルノ事

第 六 條

一 館中内外人ト條約ヲ結フノ事

第 七 條

一 館中有用ノ金銀銅錫鉛鍍賣買價ヲ定メ

賣鬻スル事

但賣買ノ機瞬時間ニアリ故ニ考査其席

ニアラサレハ議セス

第 八 條

一 某ノ鑛山ト外國人ヲ雇フヘキ事

第 九 條

一 諸器械ヲ用ヒ鑛石ノ精製ヲ始ルノ事

第 十 條

一 某鑛山辦利ノタメ某地ニ出張所ヲ建ルノ事

第 十 一 條

一 館中ノ名唱ヲ以テ代人ヲ定メ諸務ヲ命スルノ事

第十二條

一 総支配規則五條ニ於テ館主私貪ノ所置
アル時ハ是ヲ拒止スルノ事

第十三條

一 従前松友号ヲ以テ行營セシ臨時損害ヲ不招
必勝ノ公益ヲ計ル商業ヲ始止スル事

前條ノ外館中ノ重要件ハ勿論臨時ノ行
業ヲ公議スルノ權或ハ館中ノ事務得失

迹ルノ權或ハ館中ノ出納及其他ノ事務各所
鑛山ノ日表ヲ點正スルノ權力ヲ興フ

弘成館檢正課規則

第一條

一 檢正課ノ職掌館主ノ目代ナリ故ニ館主ノ命ニ依テ臨時各所鑛山ニ巡正シ一般ノ精情ヲ檢正スルハ勿論支務上ノ利害ヲ實驗シ得失ヲ注目シテ館主ニ是ヲ告スルノ權ヲ有ス

第二條

一 内外ニ在テ常ニ有用物品ヲ點正シ或ハ幣賤ノ出収ヲ檢證シ館中一般ノ支務ヲ監督スルヲ任トス

第三條

一各所鑛山ニ巡正ヲ成シ利害得失ヲ實驗シテ其
弊害ヲ知ル時ハ是ヲ鑛長ニ尋問シ共ニ議シテ以テ速ニ
是ヲ除ク令シ而テ歸館ノ上總吏考吏ニ告ケ吏柄ニ
依テハ速ニ是ヲ館主ニ告スヘシ

第四條

一鑛山中難點止ニ重吏件ノ弊害アル時ハ是ヲ詳
記シテ速ニ是ヲ館主及總事ニ述ヘ所置ヲ待ツ
ヘシ

但事柄ニ依テ館主ニ告ルト告サルト總事ニ

公議スルト公議セサルトノ別アルヘシ故ニ是ハ

正檢ノ意ニ任ス

第五條

一内外出入調進管繕ノ如キ金銀及物品ノ出入ヲ
取扱ノ諸課ニ於テハ臨時ノ點正ヲ成スヘシ而テ日表
ニ掲載セシ員數ト異ナルモノハ嚴重ニ是ヲ糾問シ
不正ノ所業アル時ハ是ヲ其長ニ告ケ館中ノ規
則ヲ以テ所置スルモノナリ

第六條

一大中小正點以下ノ職員各所鑛山ニ在ル時ハ鑛長ノ目代トナリテ檢正課ノ職掌ヲ務ムル諸課規則ニ則ルモノナリ

第七條

一正檢ハ内部ニ在テ課中ノ職掌ヲ主宰スルハ勿論各所鑛山ノ日表ヲ總事考事ト共ニ點正スルヲ司ル

弘成館内部出収課規則

第一條

一出収課ノ職掌金銀幣財ノ出収ヲ司ル權ヲ有ス然レモ自ラ是ヲ出収スルノ權ナク全ク總事ノ指揮ヲ受クヘキナリ

第二條

一總事出収ヲ命スル時ハ規則ニ於ル切符ヲ以テ是ヲ証トスヘシ切符ナキ時ハ出収課長是ヲ拒ムノ權ヲ有ス

第三條

一 調進課有用物品代價拂出ス時ハ調進課長ノ切符、総事、及正檢ノ証印ヲ以テ是ヲ證トシ其金ヲ拂渡スヘシ

第四條

一 毎日ノ出收ハ毎月下旬総總シテ毎月一日ニ是ヲ総事ニ表スヘシ

第五條

一 第四條ノ総總ヲ成ス時ハ各其切符ヲ以テ出收セシ確證ヲ顯スヘシ切符ナキ時ハ則出收課ノ過失タルカ故ニ過價則第七條ノ所置ヲ受クヘシ

第六條

一 毎年六月十二月館中一般ノ総總ヲ成スヘシ故ニ内外ノ費用ヲ算シ全益ヲ定メ本規則ノ方法ヲ以テ配分ノ算表ヲ顯ス專任タルヘシ

第七條

一 内部月俸ハ節季前日ニ拂渡スヘシ館中俸級ノ進退ニ依テ多少増減アルヲ注目シ一簿ヲ設ケ

館員ノ進退日ヲ詳記シ明瞭ニ是ヲ筆定スヘシ

但俸級ノ進退ニ依テ月俸増減スル者ハ其月ノ

大小日數以テ是ヲ除キ一日ノ法ヲ知り日數ニ

乘シテ増減ヲ定ムヘシ

第八條

一各所鑛山ヨリ俸級ノ進退點涉ヲ報知スル時ハ

即チ其日ヨリ月俸増減アルヲ以テ課中ノ簿ニ

記シ置キ各所鑛山日表檢査ノ備考トス

第九條

一出収ノ課業ハ金銀幣賦ハ出収ヲ專任スルノニ

ナラス各所鑛山ニ於ル出収調進兩課ノ統計ヲ點正

スルノ權ヲ有ス過失アル時は是ヲ總事ニ告ケ以テ

是ヲ糾問スヘシ

第十條

一出収課中ニ於テ小拂定額金ノ外現金ヲ課中ニ

積置ク支ヲ禁ス受収金アル時は是ヲ掛屋ニ預ケ

出金銀ハ手収ヲ以テ拂出スヘシ

第十一條

一 第十條ノ規則ニ於テ手形ヲ製スル時ハ先其趣ヲ
総事ニ述ヘ許可ヲ得テ以テ手形ヲ製シ番号ヲ
記シ課印ヲ据ヘ是ヲ総事ニ出スヘシ総事正
檢ノ加印ヲナセシ上亦是ヲ館主ニ出シ館主ノ許
印ヲ得テ後是ヲ掛屋ニ送ルヘシ

但館主旅行ノ節ハ館主ノ許印ニ換ルヲ
定ム

第十二條

一 小拂定額金三百圓ト定ム故ニ一百圓以下ノ諸拂ハ

此現金ヲ以テス百圓以上ハ第十條ノ手形ヲ以テ
拂ヒ出スヘシ現金ヲ以テ拂フ成ス時ハ総事ノ切符
ヲ以テ証トスル第十條ノ如シ

第十三條

一 課中出収総總ノ時故ナク不足ヲ生スル時ハ課
中月俸ノ多寡ニ應シ比例式ヲ以テ公平ニ割リ
償フヘシ不正ノ所業アリテ不足ニ及フモノハ誓言
第十條ヲ以テ所置ヲ受クヘシ

弘成館内部調進課規則

第一條

一 調進課ノ職掌内外賣買ノ權ヲ有ス故ニ其職掌高法ニ屬ス賣買ノ機心ヲ用ヒサルヲ得ス

第二條

一 内外賣買ノ物品調進課專任シテ是ヲ取扱フト雖モ規則上ニ於テ有持セシ權カノ外自ラ是ヲ裁断スルノ權ヲ有セス全ク総事ノ指揮ニ依テ賣買ノ事務ヲ取扱フモノナリ

第 三 條

一金銀銅錫鉛ノ類某ノ鑛山ヨリ送り來ル時其送
状ヲ以テ其品ヲ受收スル檢正課ノ立會ヲ以テス増減
アル時ハ是ヲ總事ニ述ヘ指揮ヲ受テ以テ簿ニ記シ
嚴重是ヲ預置ヘシ

第 四 條

一金銀銅錫鉛ノ類賣鬻スル時ハ館中ノ規則ヲ
經テ賣價ヲ定メ賣鬻ノ駈引全ク總事ノ指
揮ヲ得ヘシ

第 五 條

一金銀銅錫鉛ノ類賣鬻シ其品賣主ニ別渡ス時ハ
調進課長是ヲ其出收簿ニ記シ總事正檢ノ許印
ヲ受テ而後檢正課ノ立會ヲ得テ嚴重ニ是ヲ別渡スヘシ
但某鑛山何品何万斤ノ内何千斤ヲ何屋何某ニ
百斤何程ニ賣リ惣代價何程ト差別残有ラ
記シ檢正課ノ証鑑ヲ受テ置クヘシ

第 六 條

一第 四 條ヨリ第 五 條ノ規則ニ依テ賣鬻シ各物品

ノ代價受取ルル迄ハ調進課ノ取扱ヒテ請収ノシ上ハ
勘定書ト共ニ是ヲ出収課ニ別渡スヘシ

第 七 條

一 館中有用ノ買物ヲ成ス時ハ先ツ総事ノ切符ヲ得
而テ其物品ヲ買フヘシ物品ノ價ヲ究ムル使スルモノ
五圓以下ノ買物ハ專断スルノ權ヲ與フ五十圓迄ハ
調進課長專断ヲ許スヘシト雖モ以上ナルハ是ヲ
総事ニ告ケ其價ヲ究ムヘシ

第 八 條

一 第 七 條ニ於ル買物十錢以上ノ品ハ賣渡書ヲ取ラシム
以下ナルハ是ヲ取ルニ及ハス其品ニ代價何程買人何果ト
引札ヲ附ケ是ヲ正檢ニ出シ檢査ヲ受ケ切符ヲ
得テ其代價ヲ出収課ヨリ受取ルヘシ

第 九 條

一 第 七 八 條ノ規則ニ於テ買受タル有用物品ハ嚴重ニ
是ヲ預リ置出収課ニ於テ金銀ヲ出収スルニ等ク總
事ノ切符ヲ得サレハ拂出スヲ許サス磨ハ某鑛山ニ
要用品ヲ贈ル時ハ総事ノ切符ヲ得贈出スノ時檢正

課ノ検査五會ヲ以テス而テ其品ニ依リ某鑛山ノ管轄
調進兩課ノ請書ヲ取り課中統總ノ時是ヲ証スヘシ

第十條

一 館中昼飯科一日一人ニ合ニ錢ト定ム故ニ出収課
ヨリ出入ヲ以テ金百圓ヲ預リ置嚴重ノ規則ヲ設ケ
取賄フヘシ而テ毎月下旬結算ヲ成シ毎月一日ニ是ヲ
總事ニ表スヘシ

但本行百圓ハ諸買物ヲ成ス時其代價ヲ出収課
ヨリ受収ムル迄ノ融通ニ備スニ依テ課中限ノ

方法ヲ設ケ取扱ヲ成スヘシ

第十一條

一 課中預リ置タル有^用物員勿論第十條ノ預金百圓
ニ至ル迄故ナク不足セシ時ハ課中月俸ノ多寡ニ應ニ
比例式ヲ以テ是ノ償ヒ或ハ不正ノ事業アリテ不足ニ
及フモノハ誓言第十條ノ例ヲ以テ是ヲ可置ス
ヘシ

.....

本資料は、大阪商工会議所所蔵の「五代友厚関係文書」収録資料のうち、お問い合わせの多いものを抜粋し公開するものです。

資料を複製使用する場合は、あらかじめ申請書を提出し許可を受けていただく必要があります。

手続きにつきましては、下記事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

【事務局】大阪商工会議所 大阪企業家ミュージアム

〒541-0053 大阪市中央区本町 1-4-5 大阪産業創造館 B1F

TEL 06-4964-7601 FAX 06-6264-6011

museum@osaka.cci.or.jp

.....